

## 園芸タイムリー情報 《6月中・下旬版》

平成27年6月16日発行 第3号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

### 全作物共通

- ①晴天時は葉からの蒸散が活発になります。  
土壌水分が不足していると、しおれたり生長点などが枯れることがあります。  
かん水は根域全体にいきわたるように行き、ベッド内にムラがないか確認しましょう。  
生育期節によっては遮光資材の使用も検討しましょう。
- ②ハウス内の温度に合わせて換気を行い、生育適温の維持に努めましょう。
- ③曇天や雨天の場合はハウス内の湿度を低下させるため、状況に応じて換気を行いましょう。
- ④アブラムシ類が増加傾向にあります。今後、ハダニ類・アザミウマ類・コナガ等の害虫の増加が懸念されます。ほ場観察を行い適期防除に努めましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。  
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、幌加内町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。  
気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。  
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
※掲載されている農薬情報は、平成27年4月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

### ■□■□■□■□ GAP手法の活用【異物混入編】□■□■□■□ —異物混入防止は整理・整頓・出荷時の確認—

- ・調製作業後は、選果場所をきれいに清掃しましょう。
- ・収穫時に使用するコンテナや包装資材は、汚れが無いように管理しましょう。
- ・調製に使う器具は、きちんと整理整頓を行いましょう。
- ・出荷物に異物が混入しないよう、作業場所を整理し目視確認を行いましょう。
- ・喫煙や飲食は、選果場所で絶対に行わないようにしましょう。



#### ＜地域の事例＞

- 選果する台上には必要最小限のものしか置かない。
- 台上は白く清潔にしており、汚れや異物が目立つようにしている。

作物名

トマト類

病虫害  
生理障害名

灰色かび病

発生状況

少～中

発生時期

6月上旬～



### 発生の状況・要因

- 花びらのかすや、花落ち部分からの発生が多く見られる。
- 20℃くらいで多湿のときに発生しやすい。
- 密植、軟弱生長、過繁茂により多発する。

### 対策

- 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。

＜防除の一例（トマト・ミニトマト共通）＞

- フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内
- ロブラール水和剤 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内
- カンタストライフロアブル 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

<b>作物名</b>	<b>トマト類</b>
<b>病害虫 生理障害名</b>	
葉かび病	
<b>発生状況</b>	
中発生	
<b>発生時期</b>	
5月下旬～	
<b>発生の状況・要因</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病斑は、はじめ下葉に現われ、しだいに上葉にひろがる。</li> <li>・はじめ葉の表面の一部がわずかに黄変し、その裏側に灰白色の輪郭の不鮮明な病斑を生じ、灰白色のビロード状のカビを密生する。</li> </ul>	
<b>対 策</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。</li> <li>・適期に追肥を行い、草勢維持に努める。</li> <li>・被害残渣は適切にほ場外へ搬出する。</li> </ul> <p>＜防除の一例（トマト・ミニトマト共通）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●トリフミン水和剤 3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内</li> <li>●アフエットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> </ul> <p>※アフエットフロアブルの使用回数は3回以内となっているが、耐性菌の出現を防ぐため1～2回／年の使用に留める。</p>	
※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、 倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。	

作物名

トマト類

病虫害  
 生理障害名

すすかび病

発生状況

少発生

発生時期

6月上旬～



発生の状況・要因

- ・症状が葉かび病と非常によく似ている。
- ・気温が高くなってから見られるようになった。
- ・葉表が黄変し、徐々に茶色に枯れ込む。
- ・葉裏には灰色、黒色のカビが生じている。

対策


- ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- ・被害葉は摘除し、残渣は適切にほ場外へ搬出する。

<防除の一例（トマト・ミニトマト共通）>

- トリフミン水和剤 3,000倍 収穫前日まで 5回以内
- アフェットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

※アフェットフロアブルの使用回数は3回以内となっているが、耐性菌の出現を防ぐため1～2回/年の使用に留める。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名	きゅうり
病害虫 生理障害名	
褐斑病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
6～10月	

### 発生の状況・要因

- ・葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。
- ・べと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、表面にかびを生ずる。
- ・生育適温28℃、高温多湿条件で発生する。6～10月に多発する。
- ・草勢が衰えている場合に多発しやすい。
- ・ハウス内の土壌や資材に菌が付着し、翌年の発生源となるため、以前に発生したことのあるほ場では特に注意が必要となる。

### 対 策

- ・適正管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。
- ・昨年発生したほ場では、予防防除を行う。
- ・ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

<防除の一例>

- セイビアーフロアブル20 1,000倍 収穫前日まで 3回以内
  - ジマンダイセン水和剤 600倍 収穫前日まで 3回以内
  - ゲッター水和剤 1,500倍 収穫前日まで 5回以内
  - プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 収穫前日まで 3回以内
- ※プロポーズ顆粒水和剤は、ダコニール1000と合わせて8回以内とする。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名

きゅうり

病害虫  
 生理障害名

うどんこ病

発生状況

少発生

発生時期

6月上旬～



### 発生の状況・要因

- ・春先から6月上旬頃まで乾燥傾向であり、例年より早く発生が見られている。
- ・葉上にうどん粉をふりかけたように白色、粉状のカビを生ずる。
- ・多湿から乾燥まで広範囲の湿度条件下で蔓延し、やや高めの気温(25℃くらい)で発生しやすい。

### 対策

- ・ほ場内が乾燥条件とならないよう注意し、高温時には通路かん水も検討する。
- ・発生を確認したら早期に防除を行う。
- ・防除は、農薬の登録の範囲内で十分な散布量を確保し、薬液がしっかりとかかるように行う。
- ・ハウスサイドからの発生が多いため、サイド側からの防除も検討する。

＜防除の一例＞

- ベルコート水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 5回以内
- トリフミン水和剤 3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

園芸タイムリー情報  
 ≪6月中・下旬版≫

平成27年6月16日発行 第3号  
 【上川農業改良普及センター】  
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009  
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp  
 HomePage  
<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

作物名

すいか

病虫害  
 生理障害名

カブラヤガ  
 (ヤガ類の幼虫)

発生状況

発生に注意

発生時期

6月中旬～  
 7月下旬



発生の状況・要因

- 5月上旬からヤガ類の成虫が確認されており、例年幼虫による食害は6月中旬以降増加する傾向にある。
- 果実の接地部付近を中心に、果皮を食害する。
- 食害を受けた果実は、著しく商品価値が低下する。
- 周囲に雑草が多いほ場で被害が多い傾向にある。

対策

- ほ場周辺での産卵を抑制するため、ほ場周囲の雑草を刈り取っておく。
- カブラヤガ幼虫は、日陰となる果実の接地部付近に潜んで食害するので、収穫20～15日前にマットを敷いて、日陰と接地面積を小さくする。

※カブラヤガに登録のある農薬はありませんが、防除については普及センターまでお問い合わせください。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

園芸タイムリー情報  
 ≪6月中・下旬版≫

平成27年6月16日発行 第3号  
 【上川農業改良普及センター】  
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009  
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp  
 HomePage  
<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害  
 生理障害名

菌核病

発生状況

中発生

発生時期

5月中旬～



すいか

きゅうり

発生の状況・要因

- ・ 茎や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗する。
- ・ 腐敗部には黒色の菌核を形成する。
- ・ 菌核が土中に残り、翌年の発生源となるため、前年発生したほ場では特に注意する。
- ・ 20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。
- ・ すいか・きゅうりともに果実の花落ち部の発生が多い。

対策

- ・ 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- ・ 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。
- ・ ほ場周囲に明渠を設置するなど、排水改善に努める。

<防除の一例>

●スミレックス水和剤

すいか：	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	5回以内
メロン：	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
きゅうり：	1,000～2,000倍	収穫前日まで	6回以内

●カンタスドライフロアブル

すいか・メロン・きゅうり：1,000～1,500倍 収穫前日まで  
 3回以内



作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害  
 生理障害名



アブラムシ類

発生状況

少発生

発生時期

6月上旬～

### 発生の状況・要因

- ・葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の委凋、排泄物による葉や果実の汚染が発生する。
- ・ハウス内は温度が高いので、露地よりも増殖が早い。
- ・本年は6月上旬まで気象が乾燥傾向で推移してきたので、害虫の発生が早まることが懸念される。

### 対策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。
- ・すいか、メロンでミツバチを放飼しているほ場では、薬剤散布を控える。

〈防除の一例〉

●モスピラン顆粒水溶剤

すいか：	2,000～4,000倍	収穫3日前まで	3回以内
メロン：	8,000倍	収穫3日前まで	3回以内
きゅうり：	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内

●トレボン乳剤

すいか、きゅうり：	1,000倍	収穫前日まで	3回以内
メロン：	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内

園芸タイムリー情報  
 ≪ 6月中・下旬版 ≫

平成27年6月16日発行 第3号  
 【上川農業改良普及センター】  
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009  
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp  
 HomePage  
<http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病害虫  
 生理障害名

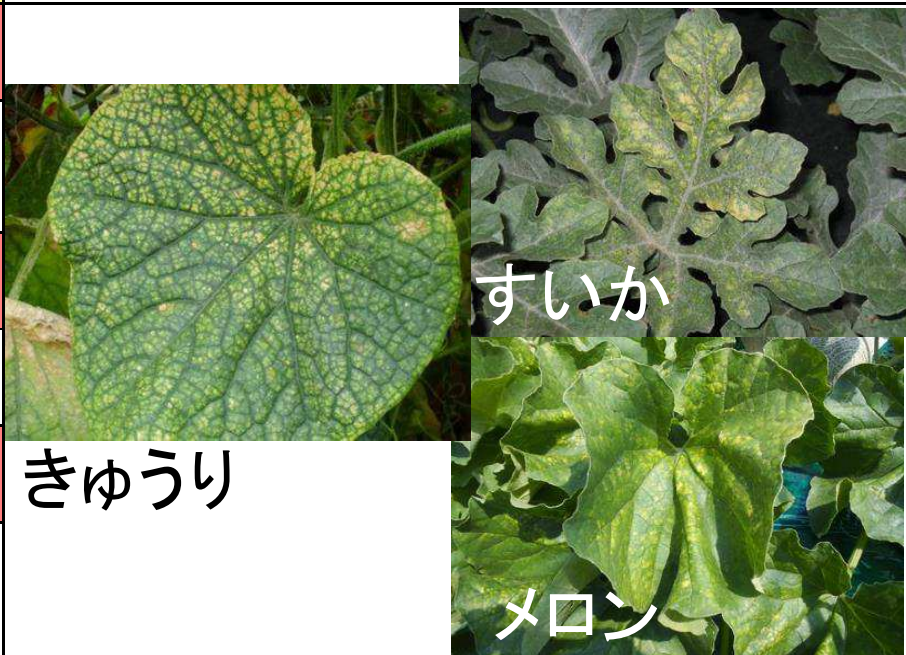
ハダニ類

発生状況

少～中発生

発生時期

5月下旬～



発生の状況・要因

- ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。増殖すると葉全体が黄変枯死する。
- ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

対策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

<防除の一例>

●ピラニカEW

すいか・きゅうり 2,000～3,000倍 収穫前日まで 1回  
 メロン 2,000～3,000倍 収穫3日前まで 1回

●ダニサラバフロアブル

すいか・メロン・きゅうり 1,000倍 収穫前日まで 2回以内

作物名

き く

病虫害  
 生理障害名

アブラムシ類

発生状況

少発生

発生時期

6月上旬～



### 発生の状況・要因

- ・発生は生長点付近に多い
- ・多肥栽培をしているほ場で発生が多い

### 対策

●防除のポイント

- ・生長点付近を重点的に薬剤散布を行う。
- ・葉の生長により薬剤の付着していない部位が出るため、発生密度が高い場合は防除間隔は短くする。
- ・ネオニコチノイド系薬剤（アドマイヤー、ダンドツ、モスピラン等）では耐性個体が出現しているため、連用は避ける。

<防除の一例>

●トクチオン乳剤	1,000倍	発生初期	5回以内
●モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	発生初期	5回以内
●チェス顆粒水和剤	5,000倍	発生初期	4回以内
●コルト顆粒水和剤	4,000倍	発生初期	4回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。